

東日本大震災

南ア救助チーム「Rescue South Africa」に対する表彰

2010年7月25日

在南ア日本大使館

7月20日(水)、ヨハネスブルグ郊外にて、東日本大震災の発生を受けて7日間にわたり被災地での行方不明者捜索活動にあたった南ア救助チーム「Rescue South Africa」の貢献を称えるべく日本政府による表彰及び昨年の日・南ア交流100周年を記念して桜の木の贈呈を行いました。当日、式典会場にお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。

1. 式典の様子

(1)当日は寒さも和らぐ晴天に恵まれ、表彰・植樹式典は、正田日本人会会長及びヨハネスブルグ日本人学校の生徒を含む約50名の在留邦人、そして南ア国際関係・協力省幹部らが見守る中、この日のために南ア各地から集まった救助隊員(普段は町の消防士や救命救急士)30名超を対象に行われました。

(2)先ず小澤大使より救助チームの活動を労い、復興に向けて歩み出しつつある被災地の様子を紹介した上で、チームの活躍は日本と南アの両国民間の友好と連帯の象徴となった旨述べ、改めてその活動に謝意を表し、日本政府を代表して表彰状を手交しました。続いてグローバル駐日南ア大使(用務帰国中)より「これまで、助けを必要としている国に躊躇なく支援の手を差し伸べてきた日本であるからこそ、南ア及び国際社会は震災



(左から)シェール RSA 代表、グローバル駐日大使、小澤大使

発生に際して直ちに日本に救助隊を派遣した」とのメッセージとともにチームの活動を称える挨拶が行われました。



また、ヨハネスブルグ日本人学校生徒(全員「サムライ・ブルー」ジャージーを着用)を代表して、内藤あかりちゃんより、チームの活動に謝意を表しつつ、「なでしこジャパン」のサッカーW杯優勝に見られるように、震災発生から4ヶ月を経過した今、日本は元気を取り戻しつつあり、日本が一丸となって頑張っている旨を強調する挨拶を行ったのに続き、生徒一人一人の感謝の気持ちを綴った寄せ書きを生徒全員でシェール代表に手交しました。

(3)これに対し、シェール代表より、「今回のミッションを含めて外国での救助活動は8度目となるが、我々の活動が被災国政府・国民に認められ、このような形で表彰を受けるのは初めてであり誠に光栄である。子供達の手書きの寄せ書きは特別な嬉しさがある。困難に直面しているにもかかわらず規律正しく避難生活を送っておられる被災地の方々の姿に感銘を受けた。我々の方こそ、恩義・礼節に厚い日本政府及び国民の皆さんに感謝する」旨述べられました。

(4)最後に、植樹及び記念碑の序幕を行ったのち、小澤大使より、チームの当地出発時に空港で撮影した集合写真を贈呈しました。



2. 表彰を終えて

短時間でしたが、久し振りに顔を合わせた隊員同士が日本での活動を振り返りながら交流を深める機会となりました。（なお、当館からは隊員達に対し、南アの太鼓グループ「ドラム・カフェ」が宮城県内の避難所や学校を巡回して住民と共に音楽を奏でる活動を継続中であること、また最近、当国ステレンボッシュ大学学生ら12名が当地の「冬休み」期間中に岩手県での震災ボランティア活動に従事したこと、また、8月2日にプレトリア市内にて震災復興応援チャリティ・コンサートが行われる旨を紹介し、レスキュー・サウスアフリカ活動後も南アからの震災支援・協力が続いていることなどを紹介しました。



被災地の現場で捜索活動の陣頭指揮をとったダイナー・チームリーダーからも今次表彰につき改めて謝意が表されるとともに、隊員数名から当館館員に対して「表彰に加えて、日南ア両国大使の出席を得た形での式典開催や隊員同士の交流の機会も設けていただくなど、我々のことをこれほどまでに大事に思ってくれる日本人の心意気・姿勢に本日改めて感銘を受けた、被災地の状況はインターネット情報等を通じて随時フォローしている、いつの日か、家族を連れて日本を再訪したいと心から思っており、日本の皆さんには、復興に向けて頑張ってもらいたい」とのコメントが寄せられました。

(写真提供: Felix Dlangamandla)